

県内公立高の倍率 前年を上回る1.06倍

中学生進路希望

県教委は20日、来春卒業見込みの中学生に対する第1回進路希望調査（2日現在）の結果を発表した。県内公立高（全日制・フレックススクール）64校全体の倍率は前年同期を0・01ポイント上回る1・06倍で8年ぶりに増加した。定員割れは4校減の32校。

学校別の倍率は、高崎経済大付属が1・76倍と4年連続で最も高く、前橋商と高崎工がともに1・55倍、桐生1・48倍、高崎北と伊勢崎清明がともに1・43倍と続いた。

定員割れは下仁田0・11倍、嬬恋0・16倍、万場0・17倍などだった。

中学などの卒業見込み者は1万7104人（前年同期比41人減）